

しんじゅ 新樹

前橋市男女共同参画情報誌

26号

回覧

2011年9月

前橋市のホームページからでもご覧になれます

前橋市 新樹

検索

「新樹」=水と緑のまちをイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようにという願いを込めました。

◆特集◆



「共に生き抜く」

震災復興へ、女性の視点と力を
一人ひとりが大切にされる
社会をめざして

・・・P.2,3

夏休み 子ども記者



1日目 8/1(月)

2日目 8/2(火)

3日目 8/3(水)

取材準備

男の仕事・女の仕事について考え
質問内容を話し合い

施設見学&インタビュー

フライトナース・航空隊員へ取材

紙面づくり

取材記事をまとめて紙面づくり



どんな質問をしよう?



全員集合



ここに貼ろうかなー?

・・・P.4,5

おじゃまインタビュー

愛泉保育園

「のびオヤジ」



イクメン大集合!

・・・P.6



鬼退治に行ったももこ達
25号新・日本昔話「ももこ」
のその先は? ...P.7



●海外レポート ●男女共同参画室だより ●編集後記 ...P.8

特集

「共に生き抜く」

3月11日東日本を襲った災害は未曾有の被害をもたらしました。

今回 震災発生直後に保健師として被災地へ派遣された塚越弥生課長に現場のお話をお聞きし、復興における女性の視点からの必要性について考えてみました。



前橋保健所
健康増進課長
保健師 塚越弥生さん

厚生労働省からの応援要請を受け、県と中核市である前橋市の保健師が二人一組で18班が派遣。

3月18日から4月7日は仙台市、4月8日～5月29日は塩釜市で支援活動。

被災地の現状について

―被災地の状況は？

私は第2班として3月22～26日の間、仙台市宮城野区の小・中学校に設置された避難所での健康相談・健康チェック・衛生管理等の支援活動に携わりました。

担当した宮城野区の周辺は基本的な生活は概ね可能な状態でしたが、海辺近くでは信号機は作動しておらず、汚泥や砂埃等もひどい中、車等の残骸の撤去作業が始まっていました。塩釜市で支援活動した保健師の話ですが、被害が甚大で、市の保健センターの1階は水没、裏手の建物には車が刺さったまま、線路には電車が止まったまま放置されていた状況だったそうです。

支援活動は先方に迷惑をかけない

―支援活動の実情と問題点についてお聞かせ下さい

支援活動は先方に迷惑をかけないことが鉄則です。衣・食・住（簡易便器等までも）必要物資は自分の判断で用意しなければなりません。車も群馬県の公用車で避難所を回りました。

日中、避難所でお会いする多くの方は高齢者でした。高層の市営住宅が地震により立ち入り禁止となり、余震が続く中、避難所での生活を余儀なくされているという状況でした。

支援・援助から取り残されるのは…

仙台市が指定している正式な避難所ではない場所（団地内の集会所のような場所）で生活されている人もいましたが、このような場所には援助物資（※1）が届きづらいという課題もありました。また、透析を受けている人や、障害を持っている人は、体育館などの正式な避難所での生活が困難なため、自主運営の場所で生活を余儀なくされている状況もありました。私達は3月23日にはじめて仙台市からそのような場所への対応が依頼されました。

今回の震災の場合、災害支援の依頼を発信出来た自治体はまだ良いですが、当初、役場機能そのものがなく、支援を求める発信すら出来ない自治体もあり本当に過酷だったことが推察されます。

女性にとってトイレは切実な問題

避難所には仮設のトイレもありましたが、とりわけ女性にとっては不都合があったようでした。トイレは女性にとって切実な問題です。（※2）

女性のプライバシーを守る必要

―人権やプライバシーに関してはいかがでしたか？

避難所には女性にとって必要な、更衣室や授乳室、下着を干す場所はなく、プライバシーが守られる状態ではありませんでした。（※3）もちろんお風呂もなく、女性からの不安が多く聞かれました。

～もしも災害が起こり、避難所生活を余儀なくされたら～

避難所では限られた空間で多くの人が集団生活をします。その中で、女性は男性と異なる特別のニーズやリスクがあります。被災者がさらなる2次被害を受けることなく、復興に向けて安心安全な生活が送れるよう、女性の視点を反映した支援が必要です。



震災復興へ、女性の視点と力を一人ひとりが大切にされる社会をめざして

夜眠れない、風の音にも不安になる等の訴えや、余震の恐怖で家にいられないと訴える 20 代の女性もいました。健康相談の内容では、持病に対する診察や投薬が受けられるかが主でしたが、このようなことに関する相談も寄せられていました。

震災直後は救命が最優先されますが、宮城野区では「このころのケアチーム」も入り、精神面の支援もスタートしていました。

職員を長期派遣し、復興支援活動

一震災の復興に向けて現在の前橋市の対応は？

8月25日現在でも、本市には福島原発での避難者を含め、161名を超える方々が避難されていますので、その方々への健康相談等の活動を行っています。

また、平成24年3月まで職員を福島県いわき市に長期派遣する等の復興支援を行っています。

情報収集と地域のコミュニケーションが大事

一前橋市は災害の少ないところですが、私達は災害に備えてどのようなことをしていくべきでしょうか？

私達市民一人ひとりが危機意識を持ち、平時から、生活している地域の状況把握・情報収集に努め、地域・近隣でコミュニケーションを図っていくことが大切です。

また、市が発行・配布している『防災マップ』・『健康・福祉相談機関関係資料』等の情報も普段から活用して頂きたいと思います。

安心・安全な避難所生活

※1 避難所で提供する物資は、女性など現場の要望に耳を傾ける

- ・生理用品
- ・手指消毒液
- ・離乳食
- ・小型スプーン
- ・サニタリー・ボックス
- ・個包装タイプの粉ミルク
- ・哺乳瓶
- ・オムツ (大人・子ども)
- ・おしり拭き
- ・水、湯
- ・消臭剤
- ・使い捨て手袋



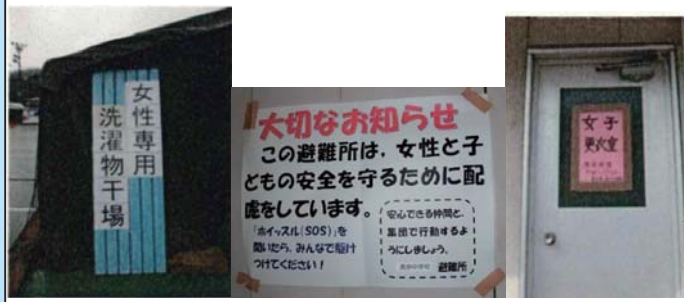
※2 女性に配慮したトイレの設置

- ・女性や子どもの安全・安心に配慮したトイレの設置 (男女別、人目につきやすい所、照明は明るく、女性用は男性用の3倍設置等)
- ・お年寄りや体の不自由な方も安全・安心・快適を考慮したトイレの設置



※3 安心・安全な生活の確保

- ☆ 男性の視線が気にならない更衣室・授乳室・入浴設備の設置
- ☆ 女性専用物の干し場の設置
- ☆ 単身女性、高齢者、障害者、乳幼児のいる家庭等に対する専用の仕切り
- ☆ 乳幼児が安全に遊べる空間の確保



女性や子育てのニーズ・視点を踏まえた災害対応

- ・ 毎日女性リーダー会議を実施し、女性の意見を積極的に取り入れる
- ・ 男性と女性の責任者を配置し、避難所運営を行う
- ・ 女性の医師、保健師、相談員による悩みサービスの提供と周知
- ・ 暴力被害者支援システムの充実やDV被害者保護施設の増設
- ・ 女性の就業や起業支援(保育所の増設やセミナー等の参加)
- ・ 警備強化、防犯ブザーの貸し出し、女性への防犯注意喚起
- ・ 避難所に意見箱の設置

東日本大震災により亡くなられた方々とそのご遺族に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々や避難生活をつづけておられる方々に心からお見舞いを申し上げます。

(編集委員一同)

夏休みみこ



前橋赤十字病院 フライトナース

たかであ ゆみこ
高寺 由美子さん



高寺さんはDrヘリに乗り、空から治療にやってくる看護師です。

◆フライトナースになって良かったと思うのはどんな時ですか？

心肺停止直前の人が早期治療のおかげで元気に歩いて退院する姿を見た時です。

◆目標にしている人はいますか？

一緒に働いている仲間や先輩のフライトナースたちです。交流の場で皆さんの経験や色々な話を聞くことが参考になります。

◆フライトナースの仕事の中で大事にしていることは何ですか？

Drヘリの中では機長、整備士、医師と私の4人しかいないので、日頃からお互いコミュニケーションをとることを大事にしています。あとは患者さんや、家族の方は不安な気持ちになっているので、なるべく声かけをするようにしています。



救命道具が
たかくさん!

◆どうしてフライトナースになったのですか？

最初は救命救急で働いていましたが、もっと早く助けに行けたらと思っていました。群馬県にDrヘリが来るという話を聞いて、是非活動に参加したいと思いました。

◆今まで大変だったことはなんですか？

事故現場が山の上で重い救命道具を背負って山登りをした時や、熊が出るようなところへ行ったり、虫に刺されながら治療することもあり、大変でした。



これがDrヘリ!



がんばって

緊急Drヘリ
出動!



日赤病院でドクター・ヘリを見学しました。ヘリコプターが飛ぶところを見られて良かったです。群馬ヘリポートにある警察航空隊へ行き、知らないことをたくさん教えてもらって良かったです。 5年 徳間 康大

日赤病院のドクター・ヘリと警察航空隊のヘリコプターを見学して、日赤フライトナースの高寺さんと警察航空隊さんにインタビューしました。大変だけれども大切な仕事だと感じました。 6年 鈴木 杏理

子ども記者を体験して、準備・取材・記事を作ることは大変だと感じました。初めて間近でヘリコプターを見てプロペラが長いなあと思いました。

4年 谷村 健竜

質問するのが苦手で、インタビューは少し緊張したけどできました。ヘリコプターが飛ぶところを見られたので、とても嬉しかったです。

4年 佐藤 萌子

乗り物や動く機械が好きで、本などでヘリコプターの仕組みを調べ良く理解した状態で参加したので取材に取組みやすかったです。

6年 佐藤 陽聖

実際にヘリポートなどにも行けて、初めてヘリコプターに乗せてもらえたり、ヘリコプターの内部や秘密など貴重なことを知ることができたりして良かったです。 6年 原 悠人

日赤病院で仕事をしているフライトナースさんに話を聞いたり、日赤病院の屋上からドクター・ヘリが飛ぶところを見られたり、特別な体験ができたのが良かったです。 6年 新井 佑奈

今までヘリコプターのことはあまり知らなかったけれど、今回の子ども記者で良く分りました。来年も参加したいです。 5年 真柄 侑奈

ども記者

市内の小学生14人が、3日間の活動を通して、性別に関わりなく、自分らしい生き方が出来る「男女共同参画社会」について学びました。自分らしく好きなことや得意なことを活かして活躍する人達を「子ども記者」としてインタビューをし、記事の作成までを体験しました。



群馬県警察航空隊 航空隊員さん

警察ヘリコプターを操縦し、空から災害救助や犯人追跡に活躍し、皆の安全を守っています。

◆隊長はどうしたらなれますか？

一つ一つを真面目にコツコツやればなれると思いますよ。

◆仕事は楽しいですか？

子どもの頃からの夢だった仕事ができていることを考えると、楽しいというより幸せだなんて思います。

◆普段はどんな仕事をしていますか？

犯人の追跡、事件や事故の情報収集や、山で遭難した人を救助しています。

◆尊敬している人、目標にしている人はいますか？

やっぱり育ててくれた両親ですね。

◆何が一番気を配ってますか？

ヘリコプターは重力に逆らって飛んでいるので、少しでも気を緩めたり、間違った操作をすれば思わぬ事故に繋がります。そういった事故を起こさないように気を使っています。

◆責任を感じるのはどんな時ですか？

一回一回の飛行の際に安全な運行と無事故で行うことを頭にいれてやっています。

◆なぜ航空隊に入ろうと思いましたか？

子どもの頃から操縦士になりたいという夢がありました。自分の好きな空の仕事で人のためになる航空隊っていいなと思い今に至っています。

◆仕事で一番辛かった事はなんですか？

自分の好きな仕事をしているので辛いと思ったことはないです。ただヘリコプターの免許を取る時はすごく勉強しました。大変で何度も辞めようかと思ったその時が一番辛かったですね。



色んな救助方法があるんだなあ



なるほど！

日赤病院ではドクター・ヘリの飛ぶところが見られて良かったです。群馬ヘリポートでは、いろいろな体験ができて、初めて知ったこともあって、楽しかったです。
5年 松本 かれん

インタビューで、疑問に思っていたことが分かって良かったです。ヘリコプターが飛び立つ瞬間を見ることができて、とてもうれしかったです。
5年 佐々木 亮太郎

ヘリコプターの中を見学したり、ドクター・ヘリが出動する様子を見ることができたりして良かったです。普段体験できないことが体験できたのでうれしかったです。
5年 山口 達哉

ヘリコプターを見学に行って写真を撮ろうとしたら、ちょうど出動して行きました。これが一番心に残っています。また参加したいです。
4年 吉田 瑛勝

いろいろなことが学べて全てがよかったです。将来はこの職業につきたいです。
4年 藤岡 太一

ヘリコプターの中は難しそうな装置が多かったけど、日赤病院の人たちや警察航空隊の人たちが丁寧に説明してくれました。インタビューでは、はっきりとしゃべることができて良い体験になりました。
6年 金子 涼奈

3日間おつかれさま！



おじやま インタビュー

★おじやまデータ★

『愛泉保育園』

(社会福祉法人しののめ会)

前橋市江木町 518

Tel : 027-268-3423

前橋市江木町にある「愛泉保育園」。ここで10年以上も前から実施されているパパの集まりがあります。

その名も「のびオヤジ」。

本誌の新人編集委員が3歳の息子と“おじやま”して来ました。

◇早くから男性の育児に注目

最近、育児に携わる男性が増えました。

今回取材した「愛泉保育園」では、かれこれ10年以上も前から男性の育児参加に着目し、ある保護者の方の発案から「のびオヤジ」を発足させ活動しています。

この「のびオヤジ」は歴史も長く、地域では有名な存在です。

今ではこれ目当てに入園を希望する家庭も多いそうです。記者がおじやました当日は、7月のとても暑い日でしたが、約20組55名の親子が参加し、その殆どはパパと子どもという組み合わせでした。

◇父(親)子の自主性に任せる

今回の活動は「作って遊ぼう」。用意された端材から、親子で考えて木工作品を作ります。ここでまず驚きました。園では材料となる端材やノコギリなどの道具を用意しますが、その後は全くの自由。作品に対しての指示はありません。周りを見廻すと、早速親子での話し合いが始まりました。そして、一緒に手を取り合いながら、あるいは道具の使い方を子どもに教えながら、親子共同で作品を作っていました。親子が自分で考

え、工夫し、自由に作品を作ります。

親子の触れ合いと自主性を大切にしたいという、園の姿勢が窺われます。親子の様子を見ると、子どもよりも親が真剣に作品作りに没頭しているようで、そんな父親を見つめる子どもたちの表情もまた、印象的でした。



▶ パパと共同作業。何ができるかな？

◇力技ならパパにお任せ!

以前、担当保育士のリードで、お父さん達と相談し、ロープを使って子どもたちの遊び場作りをしました。ブランコやターザンロープ、木と木の間にロープを張り、上のロープに掴まり下のロープに足を掛け綱渡りなど、オヤジの力の見せどころです。「パパでなければ出来ない遊びが多いので子どもも喜んでいきます。」(篠原さん)というママの意見も。家庭ではできない遊びや、普段行く公園などの遊具では出来ない遊びに、子どもたちも大いに喜んでくれています。



▲完成した自慢の作品を持ってパチリ!

「年末にはメ縄を作りました。季節感も大切にしています。」(斉藤さん)

◇家庭での育児にも生きる

実際、普段仕事で忙しく子どもと遊べないパパでも参加を契機に家庭内での子どもとの接し方や、育児に対する意識が変わったようです。「一年間単身赴任していましたが、参加するようになり子どもとの関係が縮まりました。」(井口さん)また、「育休中なので情報交換や交流の場が出来てよかった。」(湯沢さん)と、パパだけの飲み会や、悩みを相談しあったり、交流の場としても活用されています。

また名付け親の荒木さんは「父親が育児参加すると“お小言”で終始してしまい、それが嫌でした。父親でも、子どもの目線に立った育児ができるはず」と、設立当初の思いを語ってくれました。

活動を楽しむことで、父親も育児が楽しくなり、より積極的に取り組むようになる。そしてそれが家庭円満に繋がっていく。その名の通り、のびのびと育児を楽しめる集団。それが「のびオヤジ」なのでした。

25号新・日本昔話『ももこ』のその先は？

ももこの鬼退治

松本 かれん(敷島小5年)

25号「新・日本昔話『ももこ』」は『桃太郎』の主人公の性別やおじいさん・おばあさんの役割を取り替えた話でした。私達が日頃常識だと思っていることをもう一度考え直してみようというねらいでした。

＝25号あらすじ＝

昔昔、あるところにおじいさんとおばあさんがいた。ある日おばあさんが「山で柴刈りしたい」と言だし、しかたなくおじいさんは川で洗濯をすることになった。これは案外きつい仕事だと思っていたところ、大きな桃が川上から流れてきた。一人では運べないので、山から元気に帰ってきたおばあさんに助けを求めた。おばあさんが桃を切ろうとすると、中から元気な女の赤ちゃんが。「ももこ」と名づけ、二人は協力して育てた。ももこは野山をかけ回り、猿や犬やきじと友達になり元気に育った。

その頃、乱暴な男鬼たちが時々村をおそい、大切な食料などをうばい、村人を困らせていた。

これを見たももこは、猿や犬やきじたちとともに鬼退治に立ち上がった。



心を動かされた女鬼たちは台所から食料を持ち出し、村へ逃げて行きました。女鬼だけがどれいのように働かされていた鬼が島と違い、女も男も平等で協力し合うことに幸せを感じました。

一方男鬼たちは、「さけ！」「めし！」と何度もさけぶが、何もできませぬ。気が付いたら女鬼たちの姿が消えていました。男鬼の親分は手下に「飯の用意をしろ！」と命令しましたが、誰も料理ができません。頭にきた鬼の親分はどなりました。「村へ行って食料を取って来い！」

村では、女鬼たちが村人たちと米の取り入れのお祝いをしていました。そこを男鬼達がおそいましたが、「人が苦勞して育てたお米を奪うなんて許せない！」と女鬼たちは村人と一緒に男鬼たちと戦いました。お腹がすいてフラフラの男鬼たちの弱いこと。猿に引っかけられ、犬にかみつかれ、きじにつっつかれ、あっというまに、こうさんしました。男鬼の親分は暴力の代わりに平等を武器とするももこたちに勝てないことがわかり、村人たちに今までの行いをあやまりました。

こうして男鬼たちは仕事を手伝い、乱暴もしなくなりました。女鬼たちは男鬼をゆるし、仲良く家事や育児や仕事を協力しながら幸せにくらしたとき。



《作品を読んで》

このお話は「昔話」の形をとっていますが、実はこれからの社会を考える「未来話」です。「新樹」25号で「新・日本昔話『ももこ』」のお話の続きを募集しました。こんなちょっと難しいお話作りに何と3人の小学生が応募してくれました。ありがとうございます。それぞれの作品を楽しく読ませていただきました。

中尾光さん(中央小3年)のお話は、最初に、女鬼たちから意見を聞くところがいいですね。そして乱暴で怠け者の男鬼たちにご馳走を条件に働き者に変えてしまいます。

塩野新菜さん(広瀬小3年)のお話も、まずみんなの意見を聞きます。そして「男鬼も一緒に食事作りをしなさい」と率直に言います。

松本かれんさんも含めて3人のお話の共通点は「みんなに意見を聞く」でした。小学生は民主主義の基本をきちんと知っているなあと感心しました。そしてみんな「力づくのけんか」を解決の手段としていません。松本さんはさらに、「問題解決の武器は平等」としています。すばらしい！

紙面の都合で応募作品は松本かれんさんの「ももこの鬼退治」一篇だけ紹介しました。(編集委員池田)



海外レポート ～地球あちこち見て歩き～



今回から船で地球一周をした、編集委員の池田榮一さんのレポートを掲載します。

デンマーク王国編

米国の研究機関が行った国民の暮らしに関する幸福度調査で、「幸せです」の回答率が最も高かった国。その理由は何か。私はこの国の国民学校(ホイスコーレ)を訪問してこんなことを知りました。

農業以外に大きな産業がない小国デンマークは、人材育成を国家の重要課題としています。だからもちろん教育費は無料。そして子どもをゆっくり、大きく育てようとする姿勢が窺えました。このスローな教育制度は、人間1人1人が自分の中にある鉱脈を自ら発見し、発掘するというのを第1番の視点としており、それが結局は国が必要とする人材育成になるということです。これに対して日本は産業・企業の望む人的資源を促成栽培するような教育が優先されていると思います。



面積は4万3000km、人口は約550万人。
主食はジャガイモと黒パン。陽気な国民性でビール消費量も世界屈指。
言語はデンマーク語。首都はコペンハーゲン

デンマークは少人口なので、当然男女共に貴重な人材です。だから無駄のない人材配置に努力し、効率的な労働で週37時間労働。その結果、国民は豊かな自分の生活時間を持ち、「手作りの生活」が楽しめるようです。

また国は政策として、国民に「おいしい水、新鮮な空気、食糧とエネルギーの自給」の4つを約束しているとのこと。実に明快な基本的な生活の保証です。さらに教育・福祉・環境の先進国デンマークは、人生のどの時期や状況でも「安心」「安全」を保証しています。出産も教育も医療介護も老後も、そして失業や貧困に対するセーフティネットも。

こうしたことが少人口を大事に活用していく施策です。少子化をたどる日本は、この国のあり方に学ぶことがたくさんあると思います。

男女共同参画室だより



多目的室

前橋市職員研修会館
1階へ引っ越しました。



資料室



相談室

お気軽にご利用ください

広い多目的室や、男女共同参画に関する多数の資料があります。

また、配偶者や恋人からの暴力、セクハラなどでお悩みの方はお気軽にご相談下さい。

時間：月曜～金曜 9:00～16:00

電話：027-898-6520

(面接相談の場合は事前に電話でご予約ください)

編集後記



☆今年度より編集委員となりました。不慣れですが、市民の皆様にあられる誌面づくりに微力を尽くします。どうぞよろしくお願い致します。

《中林 真啓》

☆「ももこ」の結末を綴った小学生の作文を読みました。全ての子どもが話し合いによる解決策を考えていました。今も武力で紛争解決をする大人たちに読ませたい。

《池田 榮一》

☆天災はいつ・どこに発生するかわかりません。情報の認識・活用大切さ、一人ひとりの命・人格を守る社会が 真の共同参画社会であること改めて感じました。

《鈴村 美知子》

☆夏休み子ども記者の取材中、出勤要請を受けて飛び立つドクターヘリ。子供たちのわきあがる大歓声。この感動をいつまでも忘れず将来の夢に向かって羽ばたいてほしい。

《角田 のぶ子》

☆毎回取材などで様々な分野の方とお会いできるのが楽しみです。東日本大震災は、日本の将来に大きな問題を投げかけたと思います。被災された方々にお見舞いを申し上げます。

《高坂 均》

発行日：平成23年9月15日 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市 いきいき生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館1F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

<<新樹をご希望の方はご連絡ください。26号のご意見・ご感想もお待ちしております!>>